

2025年3月期 第2四半期
決算説明会

2024年11月26日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証プライム)

2025年3月期 第2四半期 決算の概要

取締役CFO 佐々木 宗俊

2025年3月期 第2四半期 連結損益状況



	2024年3月期 第2四半期 実績		2025年3月期 第2四半期 実績				2025年3月期 通期予想	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	進捗率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	74,555	100.0	81,094	100.0	+6,539	+ 8.8	162,000	50.1
営業利益	3,187	+ 4.3	2,384	+ 2.9	▲803	▲ 25.2	8,000	29.8
経常利益	2,925	+ 3.9	2,156	+ 2.7	▲770	▲ 26.3	7,000	30.8
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,333	+ 1.8	1,153	+ 1.4	▲179	▲ 13.5	4,200	27.5

● 2025年3月期 第2四半期業績概要 (対前年同期)

- 売上高: 中国で日系取引先シェア低下の加速により売上減となるも北米での日系取引先の好調な販売に伴う生産増及び円安による為替換算効果により増加。
- 営業利益: 前期からの価格転嫁効果及び北南米を中心に稼働状況が安定するも、中国の減収に伴う減益及び原材料価格をはじめ人件費やエネルギーコストの高騰に加え北南米セグメントで一時的な費用が発生し、減益。
- 経常利益: 営業利益の減少により▲770百万円減益。
- 純利益: 経常利益の減少により▲179百万円減益。

● 為替レート

損益換算レート (単位: 円)	2024年3月期 第2四半期 平均レート	2025年3月期 第2四半期 平均レート	変動率
ドル	134.8	152.3	+13%
ユーロ	145.8	164.6	+13%
メキシコペソ	7.4	8.9	+20%
人民元	19.5	21.1	+8%
インドルピー	1.7	1.8	+6%
タイバーツ	4.0	4.2	+7%
ロシアルーブル	1.8	1.7	▲5%
ブラジルリアル	26.6	30.0	+12%

2025年3月期 第2四半期 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	対前年同期 増減	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	対前年同期 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	23,919	24,306	+388	879	577	▲303
北南米	27,821	35,069	+7,248	535	800	+265
欧州	11,058	11,758	+699	582	156	▲427
中国	8,531	6,798	▲1,733	91	▲486	▲578
アジア	13,692	14,656	+964	1,061	1,371	+309
連結調整	▲10,465	▲11,492	▲1,027	37	▲33	▲70
合計	74,555	81,094	+6,539	3,187	2,384	▲803

● 2025年3月期 第2四半期 地域別業績のトピックス (対前年同期)

- 日本
【増収・減益】

売上高は、国内取引先及び海外輸出ともに安定したことで前年同期水準。
利益面は、賃上げによる人件費の増加のほか、新規事業への先行投資として専門委託費や研究開発費を増加させたことにより減益。
- 北南米
【増収・増益】

売上高は、北米における日系取引先の好調な販売状況及び円安による為替換算効果により大幅に増加。
利益面は、一時的な費用を計上したものの、価格転嫁効果に加え安定した生産に伴う稼働状況の改善により増益。
- 欧州
【増収・減益】

売上高は、欧州メーカーの販売不振による売上減を円安による為替換算効果がカバーし増加。
利益面は、材料費の高騰、インフレ及び人材確保難を背景とする人件費上昇の継続、システム導入費用等のコスト増に加え、価格転嫁交渉の遅れにより減益。
- 中国
【減収・営業損失】

売上高は、日系取引先の販売不振の加速に伴い大幅に減少。
利益面は、減収に伴う減益に加え、生産数量の急激な変動に対しコストコントロールを図るも人員削減に伴う退職費用影響もあり営業損失。
- アジア
【増収・増益】

売上高は、円安による為替換算効果及びインド子会社の生産増による増収がタイ及びインドネシアでの市場低迷による減収を上回り増加。
利益面は、増収に伴う増益に加え、生産変動に対応したコストコントロールが寄与し増益。

2025年3月期 第2四半期 営業外及び特別損益等

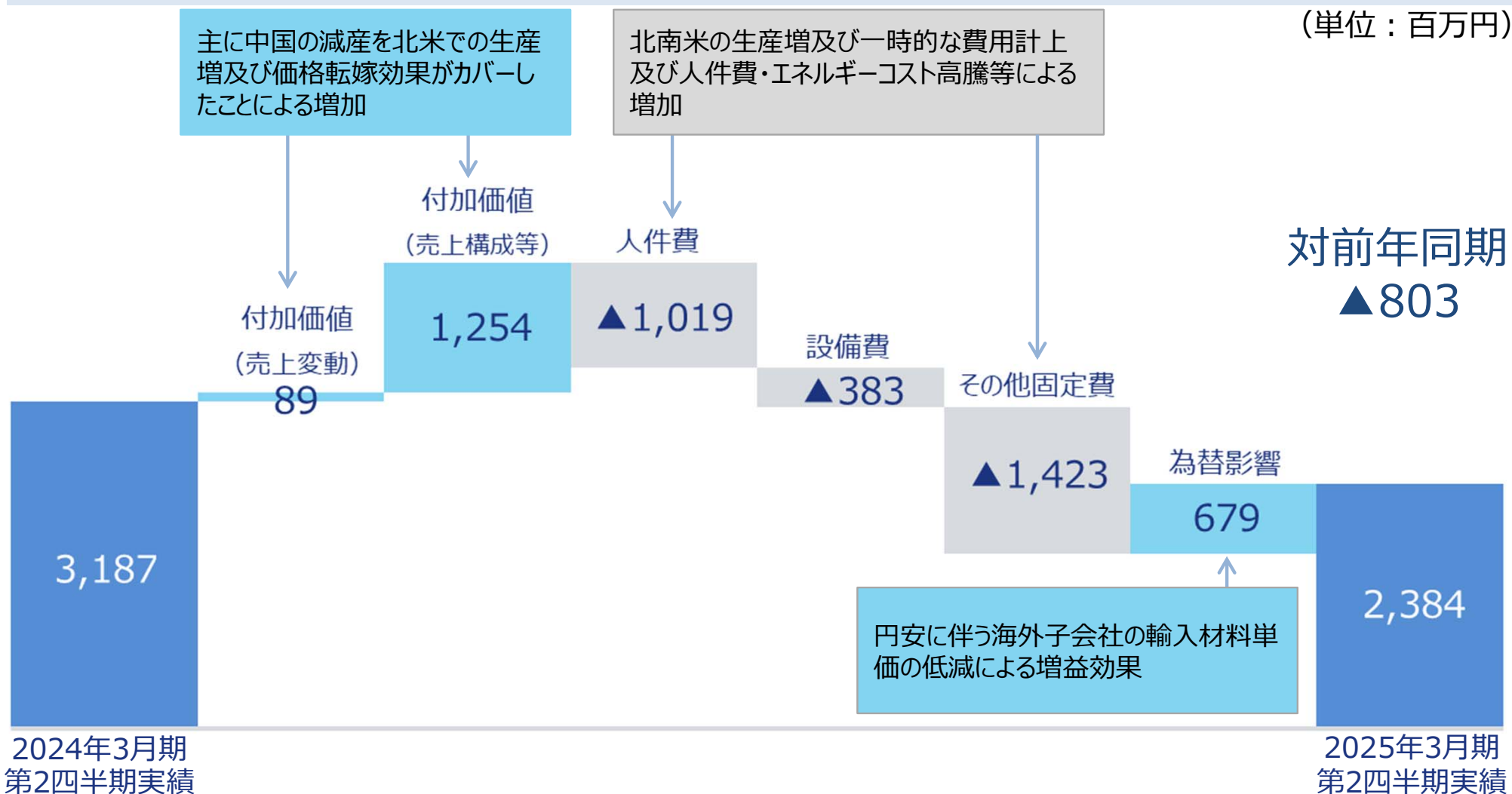


(増減額の符号は対利益符号)

連 結		2024年3月期 第 2 四半期 実績	2025年3月期 第 2 四半期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)		
			金額 (百万円)	金額 (百万円)		対前年同期	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
営業利益		3,187	2,384	▲ 803	▲ 25.2		
営業外 損益	営業外収益	341	478	+ 137		受取利息の増加+59 受取配当金の増加+39	
	営業外費用	602	706	▲ 104		支払利息の増加▲68 支払手数料の増加▲19	
経常利益		2,925	2,156	▲ 770	▲ 26.3		
特別利益		7	2	▲ 5			
特別損失		506	245	+ 261		固定資産除却損▲86 (前期 ▲158、当期 ▲244) 損害賠償損失引当金繰入額+345 (前期 ▲345、当期 発生なし)	
税引前中間純利益		2,426	1,913	▲ 513	▲ 21.2		
法人税等		776	429	+ 347			
非支配株主利益		318	330	▲ 13			
親会社株主に帰属する 中間純利益		1,333	1,153	▲ 179	▲ 13.5		

2025年3月期 第2四半期 営業利益分析

前期からの価格転嫁効果及び北南米を中心に稼働状況が安定するも、中国の減収に伴う減益、原材料価格をはじめ人件費やエネルギーコストの高騰及び北南米で一時的な費用を計上したことで減益。



注：付加価値 (売上変動) = 連結全体の売上増減 (為替補正後) × 前期付加価値率 (為替補正後)

2025年3月期 第2四半期 連結財務状況：対前期末



連 結		2024年3月期末		2025年3月期 第 2 四半期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資 産	流動資産	64,329	57.8	65,028	57.4	+ 699	総資産： +2,066 増加 ① 現預金 ▲1,236 ② 営業債権 ▲347 ③ 棚卸資産 +848 ④ 流動資産その他 +1,438 ⑤ 有形固定資産 +2,127 ⑥ その他投資有価証券 ▲1,079
	固定資産	46,916	42.2	48,283	42.6	+ 1,367	
	資産合計	111,245	100.0	113,311	100.0	+ 2,066	
負 債	流動負債	41,219	37.1	43,890	38.7	+ 2,671	負債総額： ▲246 減少 ⑦ 営業債務 +546 ⑧ 未払金 +631 ⑨ 流動負債その他 +982 ⑩ 長期借入金 ▲2,497
	固定負債	21,738	19.5	18,821	16.6	▲ 2,917	
	負債合計	62,957	56.6	62,711	55.3	▲ 246	
	純資産合計	48,288	43.4	50,600	44.7	+ 2,311	
負債純資産合計		111,245	100.0	113,311	100.0	+ 2,066	純資産： +2,311 増加 ⑪ 利益剰余金 +644 ⑫ 有価証券評価差額 ▲820 ⑬ 為替換算調整勘定 +2,739 ⑭ 非支配株主持分 ▲290

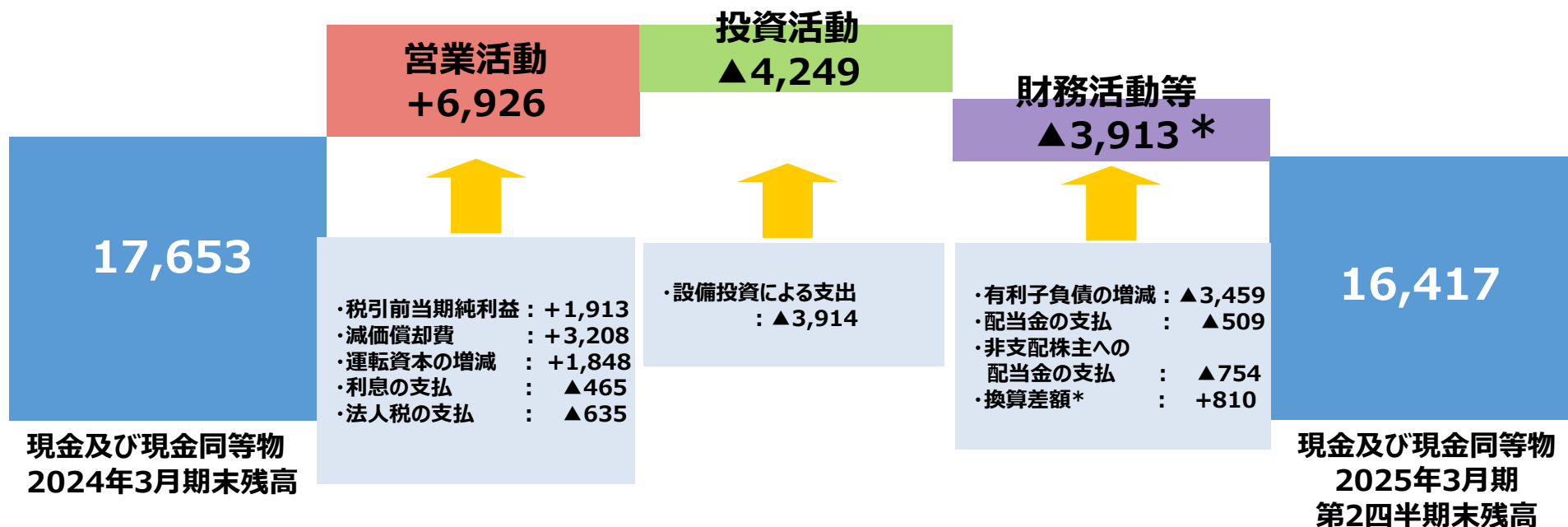
(注1) D/E レシオ・・・前期末 0.74 → 当四半期末 0.65

(注2) 自己資本比率・・・前期末 40.2 → 当四半期末 41.7

	前期末	当四半期末
①有利子負債	33,011	30,645
②自己資本	44,684	47,285
①/②	0.74	0.65

● 2025年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (+810百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

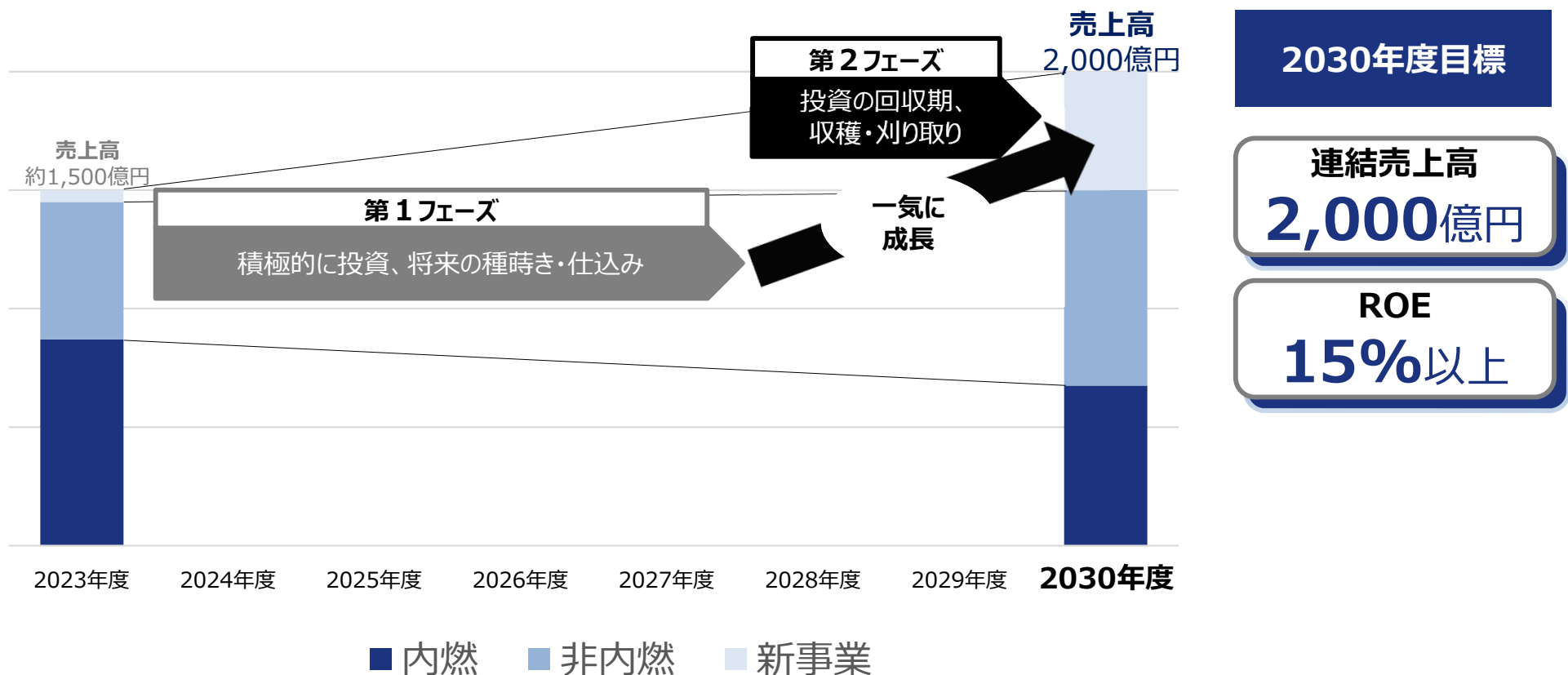
	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	
		実績	対前年同期
設備投資額	3,429	3,914	+485
減価償却費	2,933	3,208	+275

中期経営方針の 概要と進捗

取締役社長 竹田 玄哉

①自動車部品事業▷**新事業**、②内燃▷**非内燃**という**2つのトランスフォーメーション**を通じて、**レジリエントなマルチポートフォリオの構築**を目指す。
その結果、2030年以降もサステナブルに成長し続ける。

2030年度までのロードマップ(イメージ)と定量目標



唯一のグローバル自動車配管“**専門**”サプライヤーとして、既存市場に踏み止まり続けることで取引優位性を獲得する「サンオー・ラストマン・スタンディング戦略」でグローバルシェアNo.1を狙います。

1

高い市場占有率とスイッチングコストを梃に**利益率を改善**

2

グローバル客先生産体制の**現地生産機能・生産性向上**

3

サーマル自動車部品の“Tier1.5戦略”

▼グローバル客先生産体制の**現地生産機能・生産性向上**

Topics.

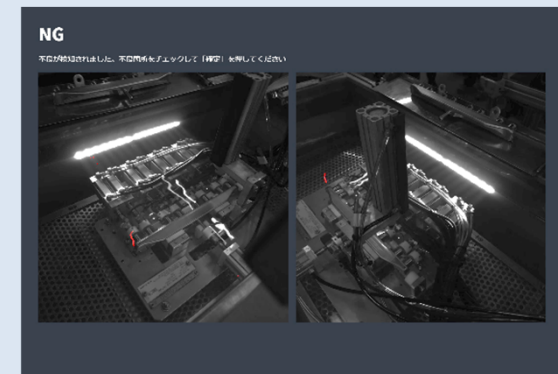
既存生産設備の更新

大量生産を主眼とした旧来の生産ラインから、**少量多品種にも対応できる低負荷・高効率の生産ライン**へ切り替え。新たな生産ラインでは既存の設備よりも電力消費を抑制することができるため、**CO₂排出量の削減**に大きく貢献。



AI検査機の導入

スタートアップ企業である株式会社コズムの知見を生かして、AIによる気密および外観検査を実現する「AI検査機」を試作導入。**「官能検査から自動検査への転換によるさらなる品質の安定化」**、**「作業自動化による省人化および生産性の向上」**を目指して、実証実験中。



▼サーマル自動車部品の“Tier1.5戦略”

Topics.

EV向け円筒型電池の側面冷却用 クーリングプレートを開発

耐久性が高く、エネルギー供給が安定的で量産性が高いとされる円筒型電池用のサーマル部品を開発。
当社技術により、高額なプレス金型およびブレージング（炉中ろう付け）が不要。



EV向けインバータ用クーリングプレート を試作受注

大手日系自動車部品メーカー様からEVに搭載されるインバータ向けのサーマル部品を試作受注。
両面放熱パワー半導体素子の効率の良い冷却が可能。



自動車配管技術を梃にデータセンターや家電用水冷配管、設備の外販事業等の新事業への展開を積極的に推進します。

1 データセンター(DC)向け**冷却装置**の事業化

2 **生産ソリューション**のビジネスモデル化

3 【サーマルx生産ソ】クロスドメインな
冷蔵庫向けワイコン事業

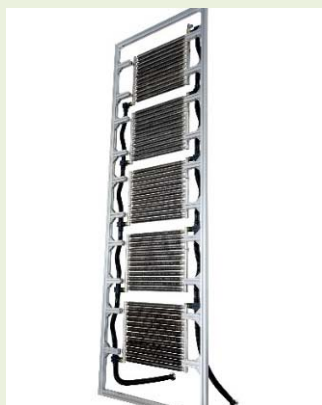
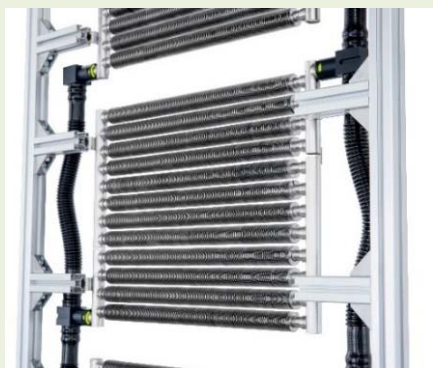
▼データセンター(DC)向け**冷却装置**の事業化

Topics.

データセンター向け水冷冷却装置 新機種を開発

本年2月に発表したパイプタイプ冷却装置（リアドア式）と同様に、データセンターのサーバーラック背面に取り付け、排熱される高熱を水冷冷却する機能を持つ**新機種**。

寸法・重量ともコンパクトな設計としたことで、**既存のサーバーラックの背面ドアへの取り付けが可能**となり、**経済性、保守作業性**などが**当社製品の優位性**。



※前機種（右側）との奥行寸法比較

▼データセンター(DC)向け**冷却装置**の事業化

Topics.

データセンターの次世代技術の検証施設 「Data Center Trial Field」に当社も参画

株式会社NTTデータ様および日比谷総合設備株式会社様が、データセンター領域におけるコミュニティの拡大およびコラボレーションの促進と課題解決のための協同を目的に開設。さまざまな業種の企業が参画する中、当社は、液ダレ防止などの特長を備えた専用製品「バルブ機能（止水機能）付き継手」と各種インターフェイスを開発し、同施設に常設。



▼データセンター(DC)向け**冷却装置**の事業化

Topics.

拡販活動として、各種展示会に積極出展

- 「CEATEC 2024」へ初出展
(2024.10.15～18)



- 今後も出展予定

- 中国最大級のデータセンター展示会「CDCE 2024 ～China Data Center Expo～」(中国・上海)に水冷冷却装置の実機などを展示予定(2024.12.5～7)
- 「データセンター・イノベーション・フォーラム 2024」(オンライン開催)において、当社従業員によるデータセンターにおける冷却機能についての講演予定(2024.12.5)

▼生産ソリューションのビジネスモデル化

Topics.

FA(Factory Automation)本部を 2024年4月に新設、着実な実績

積極的な拡販活動を通じて自動車業界に限らず、幅広いメーカー様から加工設備や搬送技術に関する引き合い有。2023年10月～2024年9月までの**受注実績は39件**。



拡販活動として、中国の展示会に出展

「**Tube China 2024 中国国際管材製造加工・技術展**」
(中国・上海)において、配管の曲げ設備を実機展示し、高精度な曲げ加工技術をデモ(2024.9.25～28)。開催者と中国のCCTV国営放送局からもインタビュー。



▼生産ソリューションのビジネスモデル化

Topics.

株式会社LexxPlusへの出資および 業務提携

他社との協業を含めたインオーガニックな戦略を推進中。

自動搬送システムの開発・販売を行うLexxPlus社との提携により、以下のシナジーを展望。

- ① 社内の生産・物流現場における搬送工程の自動化およびDX化の実現
- ② ①の実績を基にしたFactory Automation（工場自動化）（以下、「FA」）の構築・提案の実現
- ③ FAに関連する新規事業の創出
- ④ LexxPlus社製のAutonomous Mobile Robot（自律走行搬送ロボット）への当社製バッテリーパックの採用・搭載

▼【サーマルx生産ソ】クロスドメインな**冷蔵庫向けワイコン事業**

Topics.

インドにおける冷蔵庫用ワイヤーコンデンサーの 生産能力増強

インドの堅調な冷蔵庫需要を背景として、
インドの子会社において外製していたチューブ製造ラインの内製化を決定。
内製化により、安定したチューブ供給能力の確保、現地における売上
およびシェア拡大を実現し、同時に製造原価の改善によって、
さらなる収益力の向上、品質管理の強化などに向けた取り組みを計画。



本年6月より、主にフェア・ディスクロージャーを目的に「**ステークホルダーの皆さまから頂戴した質問とそれに対する回答**」の開示を開始いたしました。



2024年6月7日

各 位

会 社 名 三櫻工業株式会社
代 表 者 取 締 役 社 長 竹 田 玄 哉
(コード番号：6584 東証プライム)
問 合 せ 先 執 行 役 員 松 本 安 生
ガバナンス統括本部長
(TEL. 03-6879-2622)

ステークホルダーの皆さまから頂戴した質問とそれに対する回答

2024年5月30日(木)に実施いたしました、機関投資家・アナリスト向け2024年3月期決算説明会で頂戴した質問とそれに対する回答を以下の通り開示いたします。

本開示は皆さまへの情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として、説明会やIR面談等の場で頂戴した質問とその回答を開示するものです。また、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 2024年3月期の業績改善のために実施された具体的な取り組みがあれば教えてください。

A1. 業績改善のための施策は主に三つあります。価格転嫁の交渉、取引プロセスの全般的な見直し、不可逆的な構造改革です。

価格転嫁の交渉に関しては、材料価格高騰、インフレ影響などのダメージは我々の製造現場における改善という自助努力だけではカバーできる範囲を超えており、取引先様への確実な価格転嫁という形で補償を求める事が決算の正常化にとっては、最優先課題でありました。

取引プロセスの全般的な見直しに関しては、オーダーや数量変動に耐えられる、生産、発注方法などの内部的な努力と、取引先様との契約や販売方法の変更など様々な対応が必要であり、今一度商流、発注などのプロセスの仕組みを見直し、全社を挙げた効率化の追求、スリムな体制確保、ムダ取りの推進を実施いたしました。

不可逆的な構造改革に関しては、製造拠点の統廃合、サプライチェーンの見直し、輸送網の見直し、製造プロセス、社内プロセスの見直しなどを継続して実施いたしました。

目的・狙い

開示情報の拡充、フェア・ディスクロージャーを目的に、当社株主様を含むステークホルダーの皆さまへ向けて、IR面談や各種説明会で寄せられた主なQ&Aを開示。

開示対象情報

- ✓ 決算説明会でのQ&A
- ✓ IR面談でのQ&A
- ✓ その他クローズドな場にて頂戴したご質問とそれに対する回答

本年10月31日、統合報告書2024の内容および「三桜工業」の独自の強み・ポジショニングのご説明を通じた当社の認知向上を目的に、「**統合報告書説明会**」を開催いたしました。



統合報告書 説明会

三桜工業株式会社
(東証プライム: 6584)



Integrated Report

Copyright © 2024 Sanoh Industrial Co., Ltd.

目的・狙い

当社株主様を含むステークホルダーの皆さまに対して、本説明会を通じた認知度向上を促す。

説明会情報

- ✓ 当日視聴者数：1,566名
- ✓ アーカイブ配信が視聴可能
(2025年6月30日(月)まで)

会社概要

2024年11月

会社の概況（2024年3月31日現在）

商号	三桜工業株式会社(登記社名:三桜工業株式会社)
英文商号	Sanoh Industrial Co., Ltd.
設立年月日	1939年3月24日
資本金	34億8,110万円
従業員数(連結)	7,915名
主要製品	ブレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル、ショルダーアジャスター、設備等

役員（2024年6月21日現在）

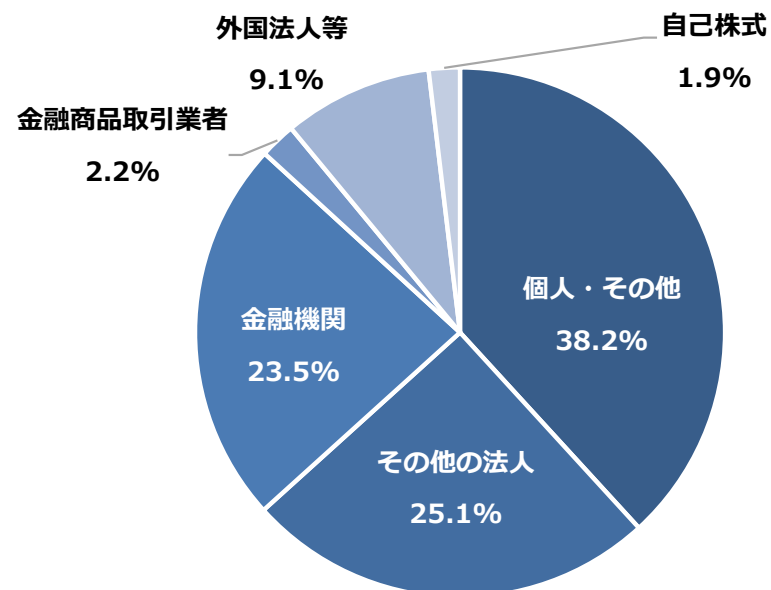
取締役会長	竹田陽三	取締役(社外)	井澤吉幸
取締役社長	竹田玄哉	取締役(社外)	富岡さやか
取締役	佐々木宗俊	常勤監査役	三輪はるか
取締役(社外)	金子素久	監査役(社外)	平石智紀
取締役(社外)	森地高文	監査役(社外)	古川絵里
取締役(社外)	入山章栄		

株式の状況（2024年9月30日現在）

発行可能株式総数	144,848,000株
発行済株式の総数	37,112,000株
株主数	18,438名

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,681	10.11
神鋼商事株式会社	2,213	6.08
本田技研工業株式会社	2,000	5.50
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,756	4.83
スズキ株式会社	1,600	4.40
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,420	3.90
株式会社常陽銀行	1,243	3.42
アルコニックス株式会社	780	2.14
個人株主	514	1.41

所有者別の株式保有比率（2024年9月30日現在）



ミッション/ビジョン
Mission/Vision

私たちのMission（使命）は、ものづくり企業として、製品の提供とグローバルな事業活動を通じて、ステークホルダーの「安全と安心」、「環境保全」のために力を尽くすことです。
Missionを果たしていくために、「人を育て、システムを育て、技術を育て」、創意あるエキスパート集団になることを目指します。

モットー
Corporate Motto

経営全領域にわたる絶えざる改革

三桜ウェイ
The Sanoh Way

1

新しい価値を
生みだす

- ・ Futurity
- ・ Flexibility
- ・ Humanity

2

組織で力を出す

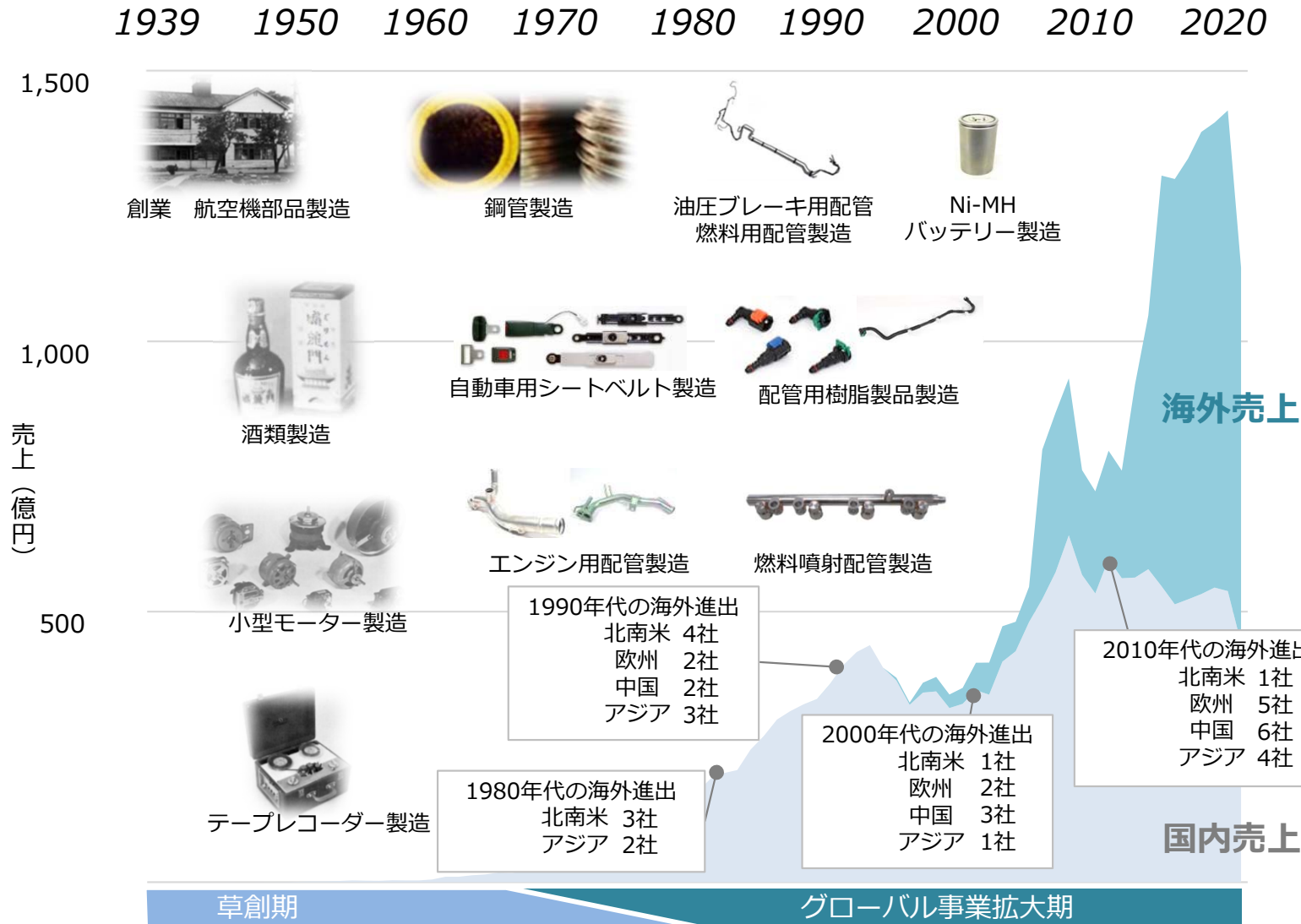
- ・ 責任感
- ・ 三桜マーケットイン
- ・ 自発・自律・迅速

3

高い志を持つ

- ・ 知識 × 意欲
- ・ 手づくり
- ・ チャレンジ

自己変革と多様性が三桜のDNAです。



創業

1939年

グローバル拠点数*

19カ国

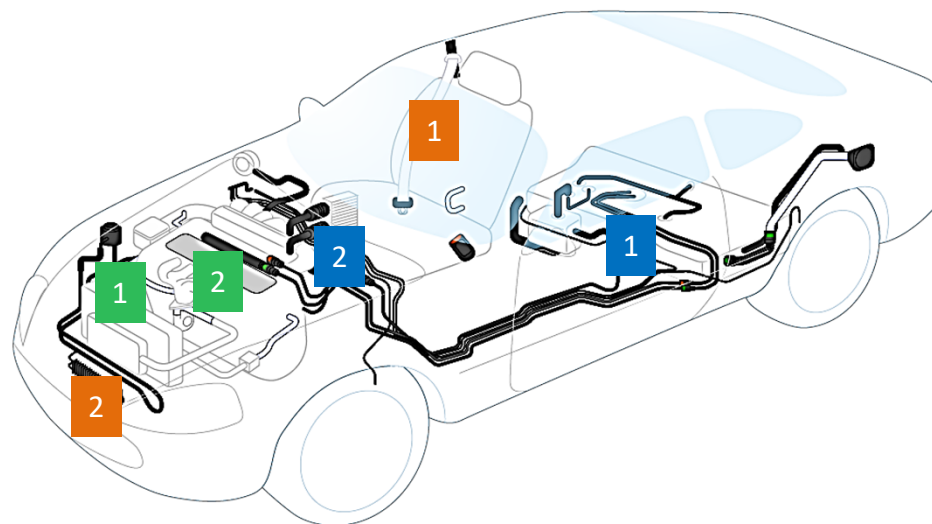
82拠点

連結従業員総数*

7,915名

※2024年3月31日時点

自動車の根幹【走る／曲がる／止まる】を担う重要保安部品を提供しています。



1. 燃料配管関連製品



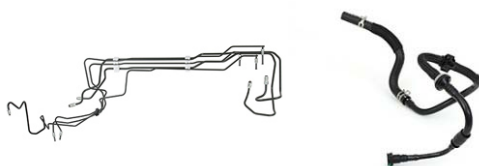
1. 安全関連製品



1. 熱交換関連製品



2. ブレーキ配管関連製品



2. 環境関連製品



2. エンジン関連製品

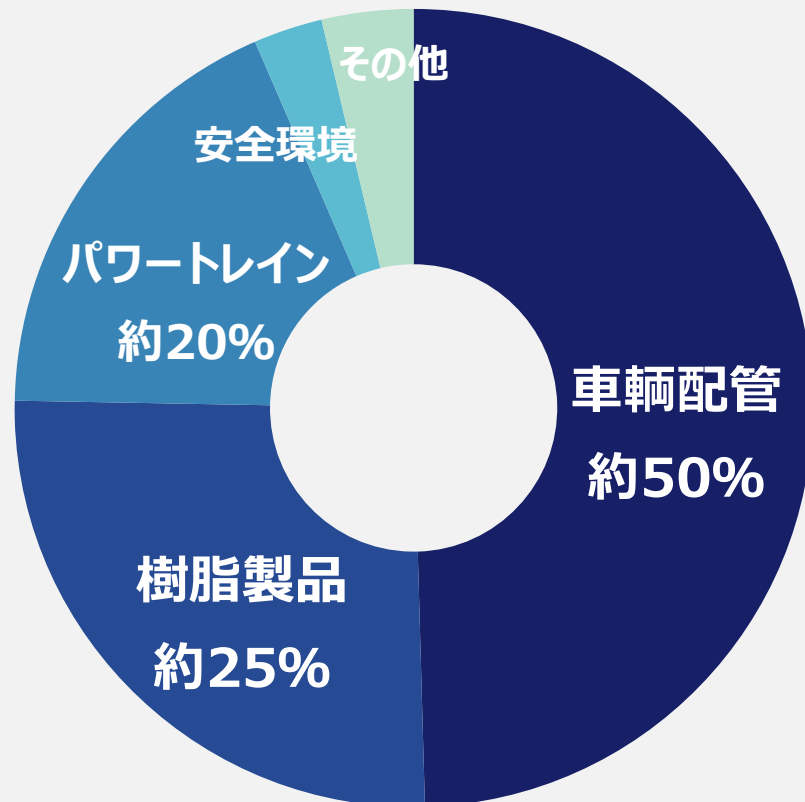


その他



当社の主要製品は車両配管をはじめとする配管製品が大半を占め、その素材は金属から樹脂まで幅広く取り扱っており、異なる素材を加工し接合する異材接合技術を強みとしています。

売上構成（参考）



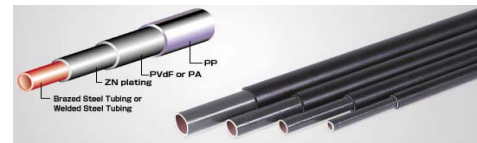
ダブル
スチールチューブ



シングル
スチールチューブ



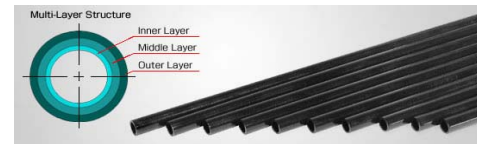
PAコートチューブ



PCコートチューブ



単層樹脂チューブ

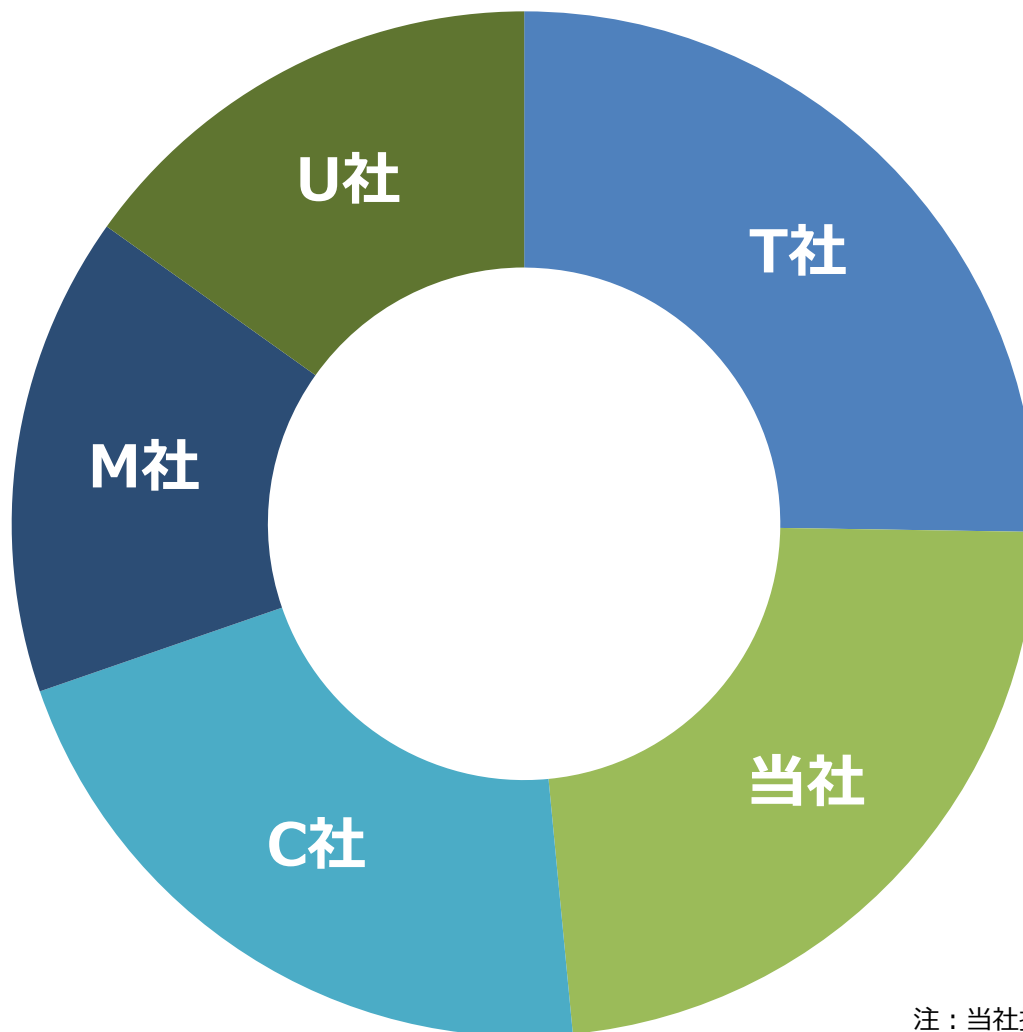


多層樹脂チューブ



コンポジット
樹脂チューブ

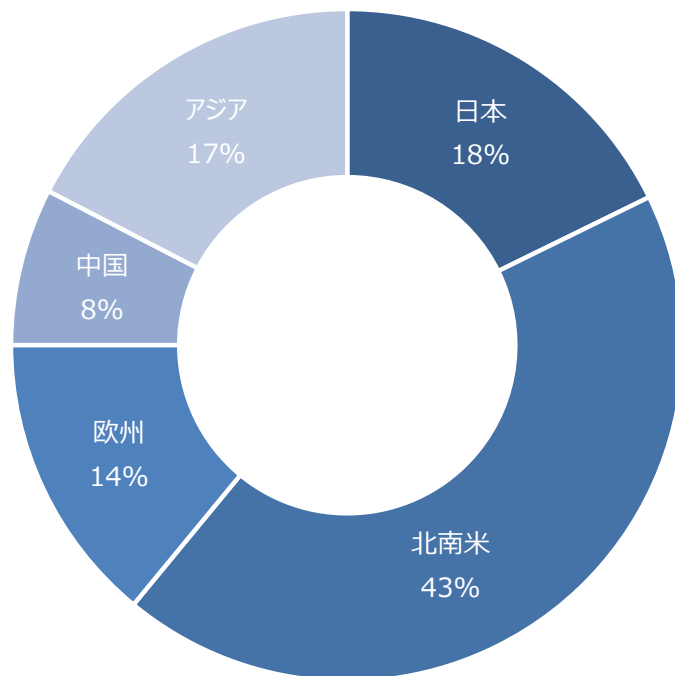
当社が属する車輛配管市場はグローバルベースで競合先数が限定的な寡占市場であり、中でも当社は高い市場占有率を獲得しています。



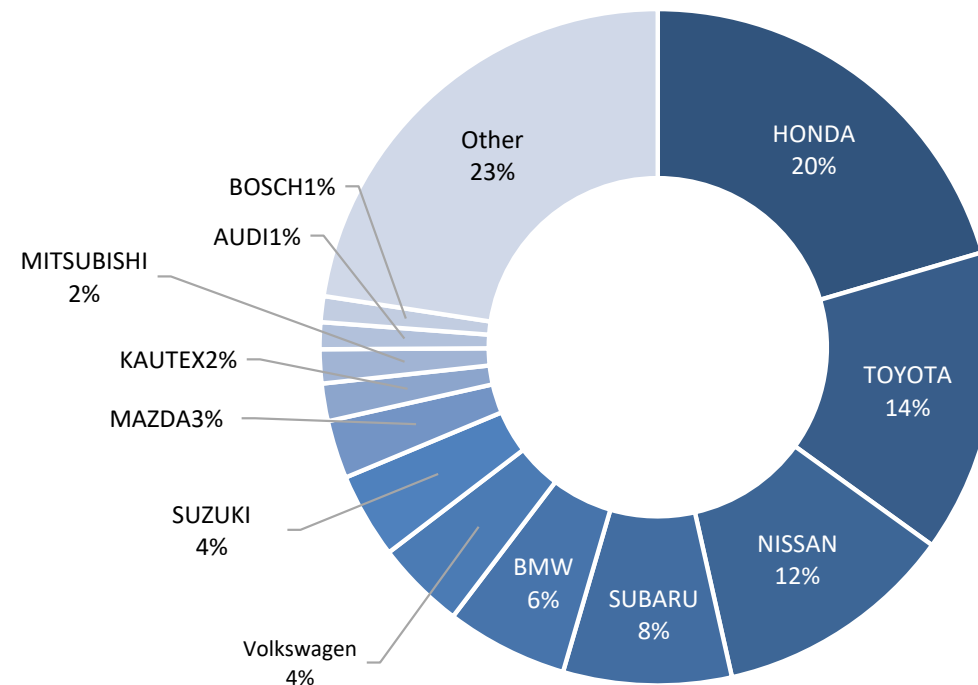
注：当社推定

当社は特定の完成車メーカーの資本系列に属さない独立系サプライヤーとして、地域・顧客いずれも偏りなく横断的に事業を展開しています。

地域



OEM / Tier1



注1：2024年9月30日時点。

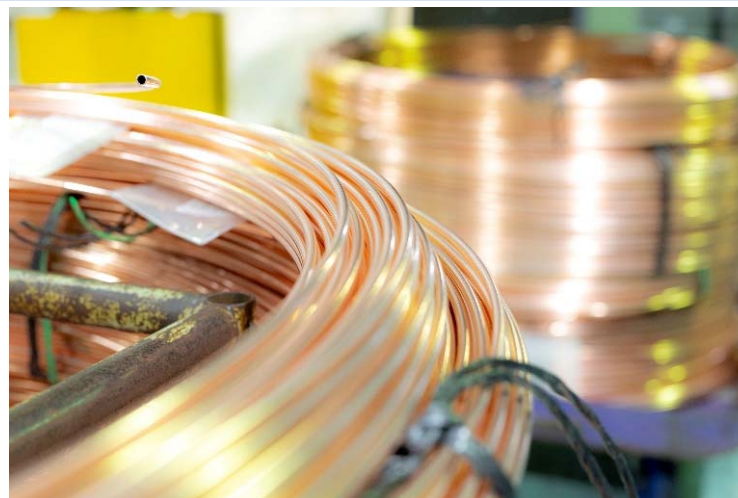
注2：地域別売上構成については、セグメント間の内部売上高又は振替高を除く。

当社の主要製品である車輛配管は、①鋼材を引き伸ばし（＝伸線）、②引き伸ばした鋼材を管状に成型し、③管状に成型した鋼材に曲げ加工等を施し、④それら複数の管状に成型した鋼材を組み付けて出荷します。

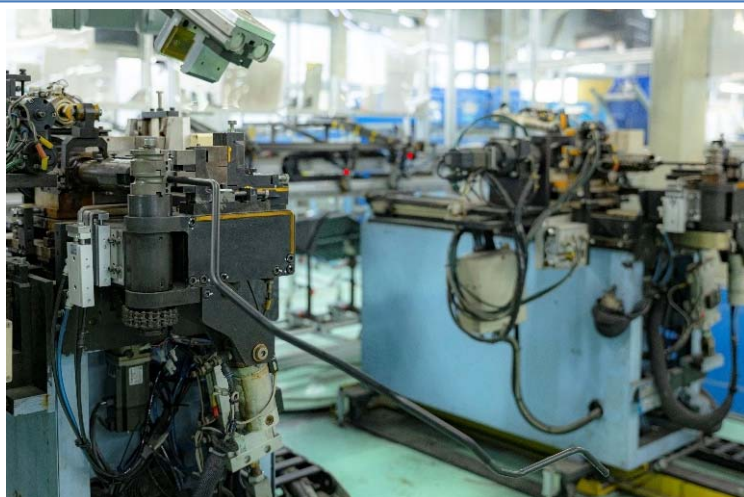
1 鋼材の伸線



2 パイプ加工



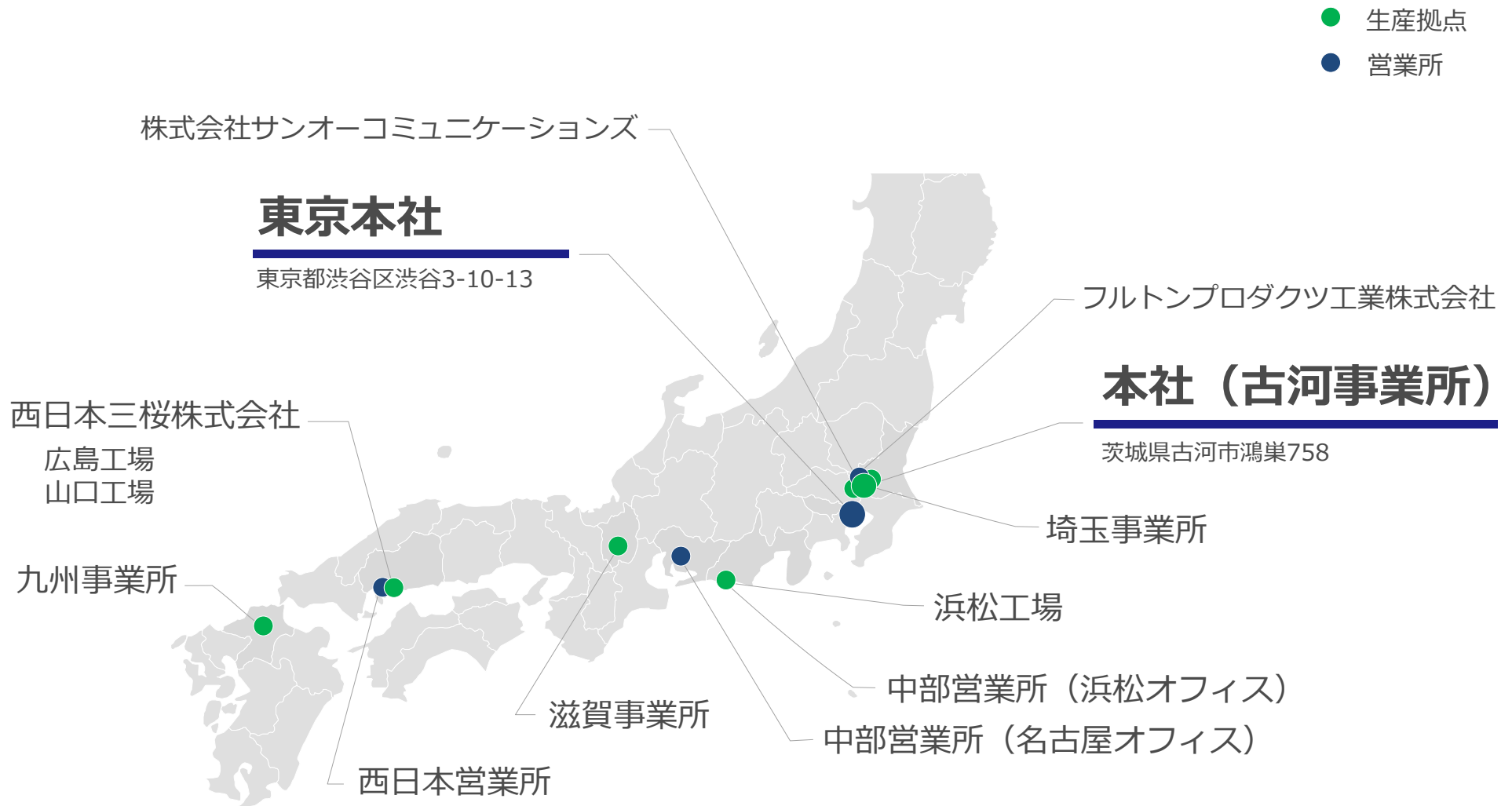
3 曲げ加工



4 組付け・出荷



当社の主要製品の車輻配管の特性から、輸送効率向上のため顧客の工場に近接する形で国内外に工場ネットワークを擁しており、参入障壁の一つとして寄与しています。



Europe

- United Kingdom ■
- France ■
- Hungary ■
- Russia ■
- Germany ■ ■

Asia

- | | | | |
|----------|--|-------------|--|
| Japan | ■ ■ ■ ■ | Indonesia | ■ ■ |
| Thailand | ■ ■ ■ | Philippines | ■ |
| Malaysia | ■ | China | ■ ■ ■ ■ |
| Taiwan | ■ | Vietnam | ■ |
| India | ■ ■ ■ | | |

N/S America

- United States ■ ■
- Canada ■
- Mexico ■ ■ ■
- Brazil ■
- Argentina ■

- …鉄造管
- …樹脂造管
- …車輛配管
- …パワートレイン

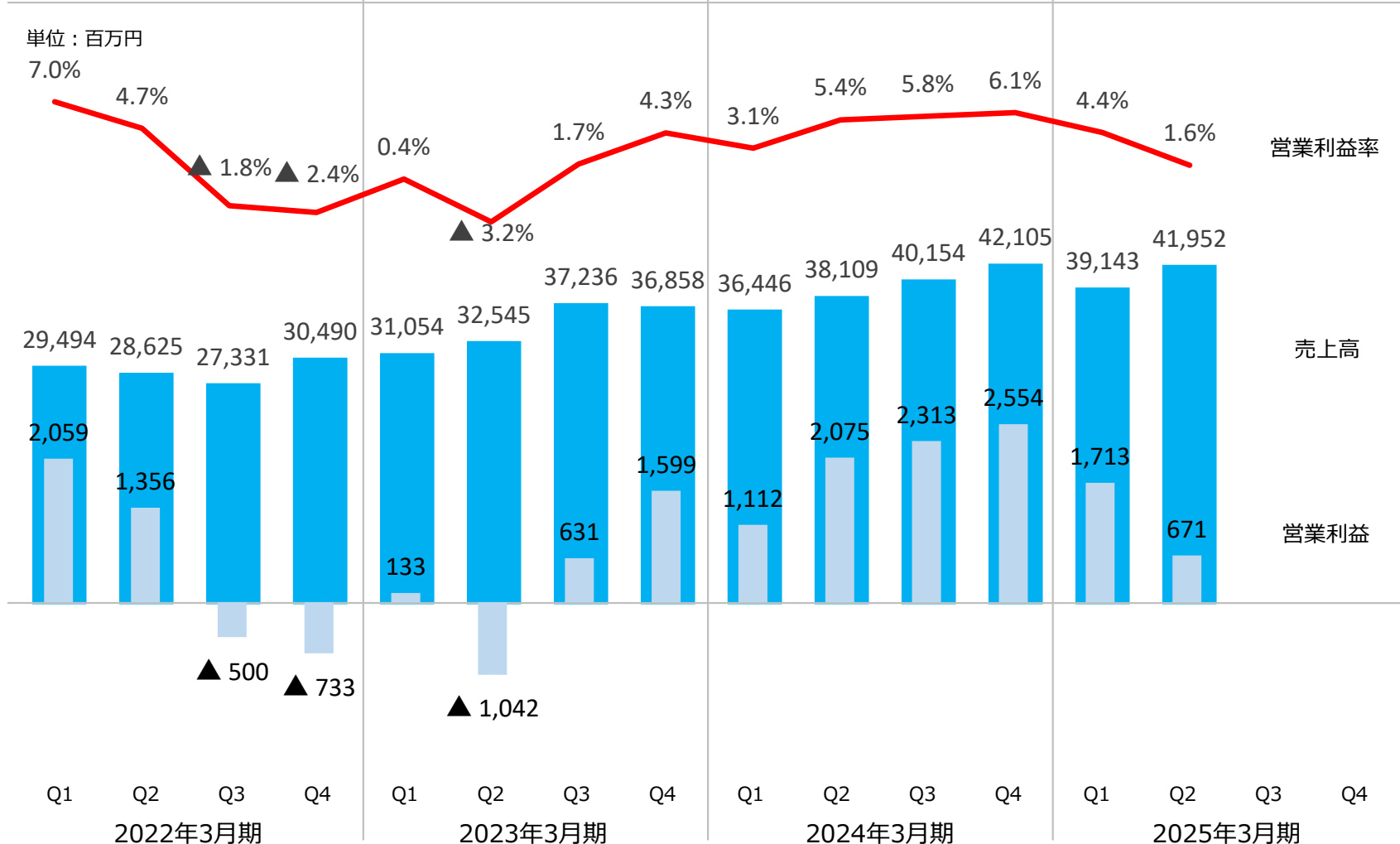
補足資料

セグメント別四半期業績推移

<連結>



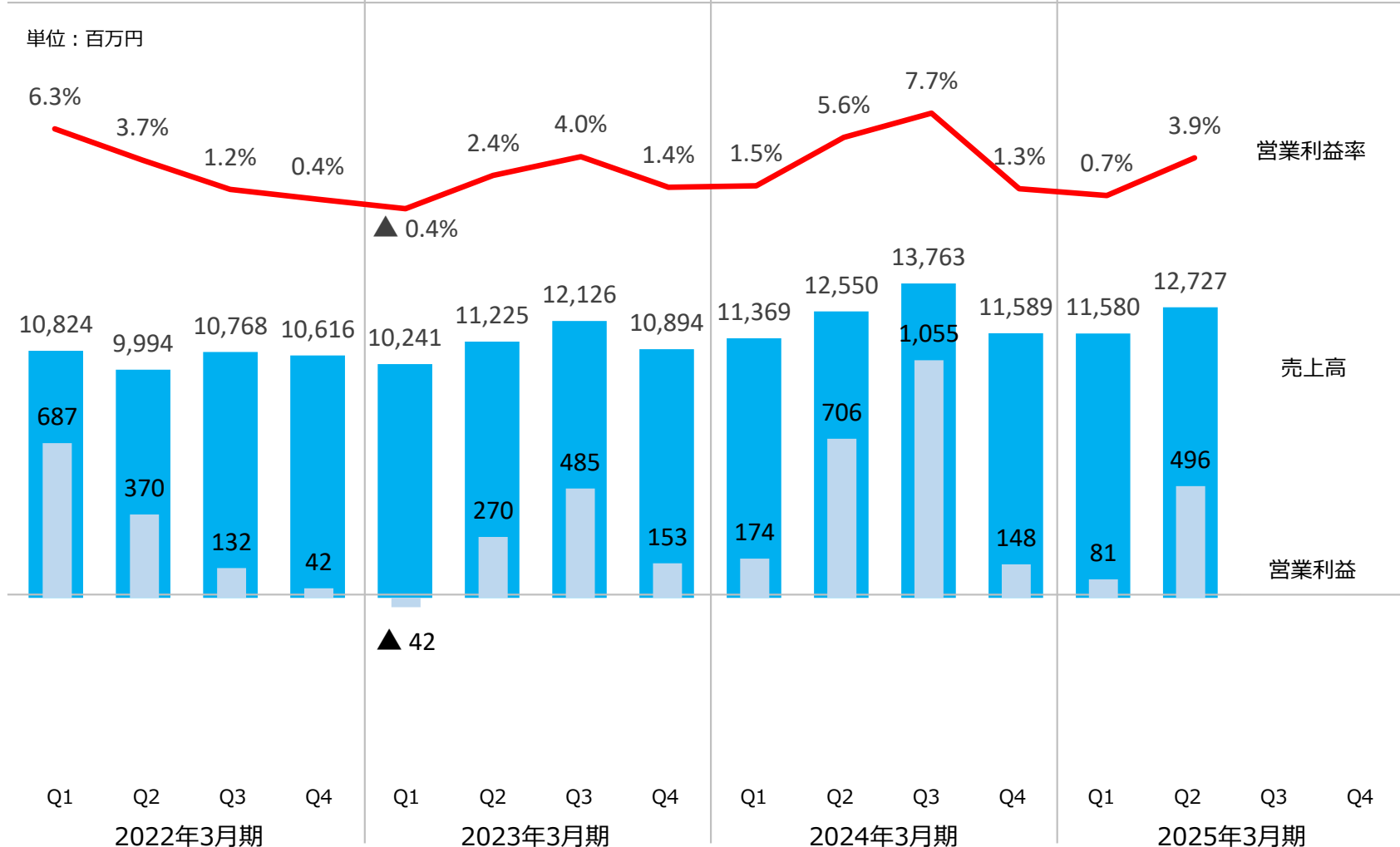
売上高	115,940百万円	売上高	137,692百万円	売上高	156,814百万円	売上高	81,094百万円
営業利益	2,183百万円	営業利益	1,321百万円	営業利益	8,053百万円	営業利益	2,384百万円
営業利益率	1.9%	営業利益率	1.0%	営業利益率	5.1%	営業利益率	2.9%
為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	140.6円	為替 (円/USD)	152.3円



セグメント別四半期業績推移 <日本>



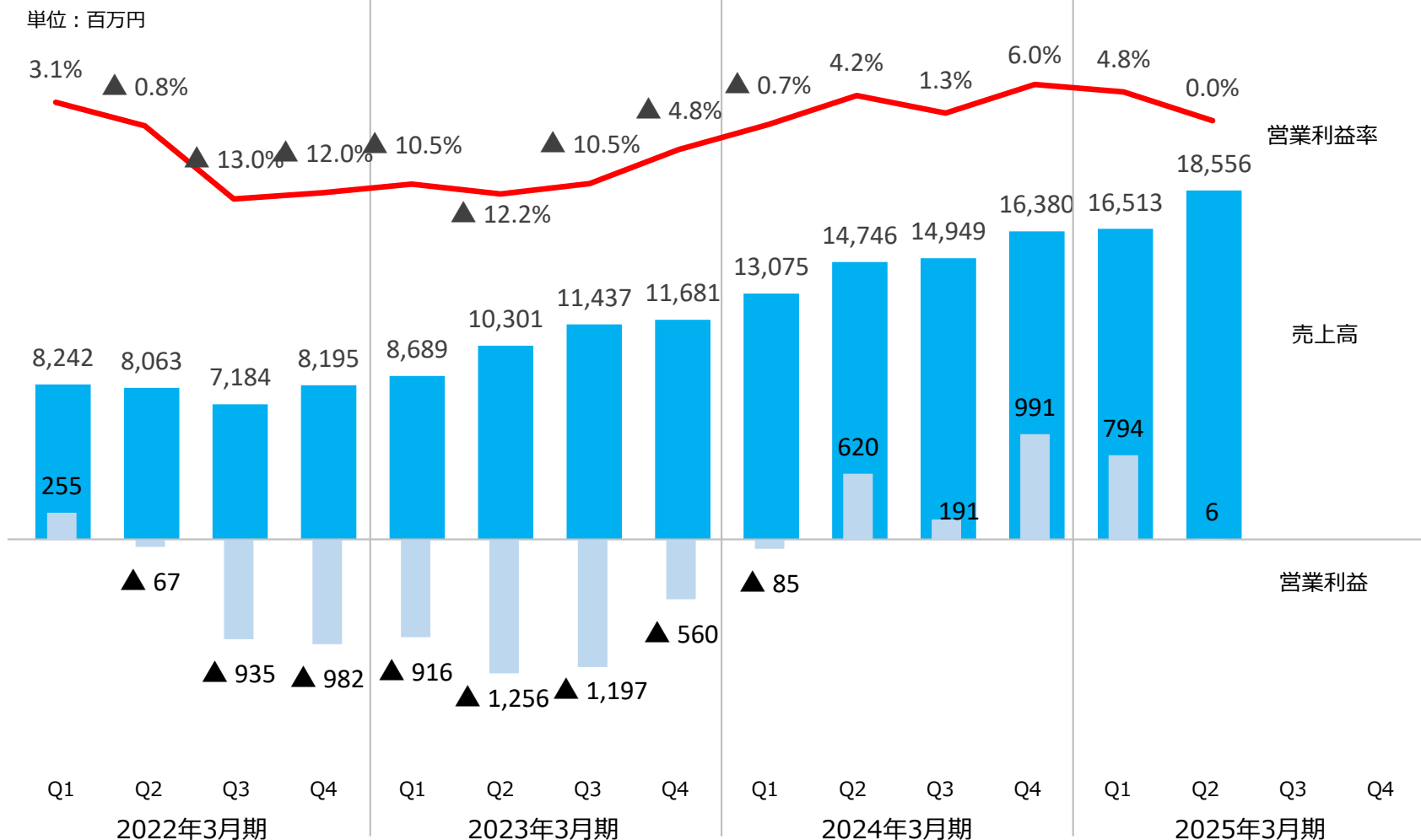
売上高	42,201百万円	売上高	44,485百万円	売上高	49,271百万円	売上高	24,306百万円
営業利益	1,230百万円	営業利益	865百万円	営業利益	2,083百万円	営業利益	577百万円
営業利益率	2.9%	営業利益率	1.9%	営業利益率	4.2%	営業利益率	2.4%
為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	140.6円	為替 (円/USD)	152.3円



セグメント別四半期業績推移 <北南米>



売上高	31,683百万円	売上高	42,107百万円	売上高	59,150百万円	売上高	35,069百万円
営業利益	▲1,729百万円	営業利益	▲3,928百万円	営業利益	1,717百万円	営業利益	800百万円
営業利益率	▲5.5%	営業利益率	▲9.3%	営業利益率	2.9%	営業利益率	2.3%
為替 (円/USD)	109.8円	為替 (円/USD)	131.4円	為替 (円/USD)	140.6円	為替 (円/USD)	152.3円

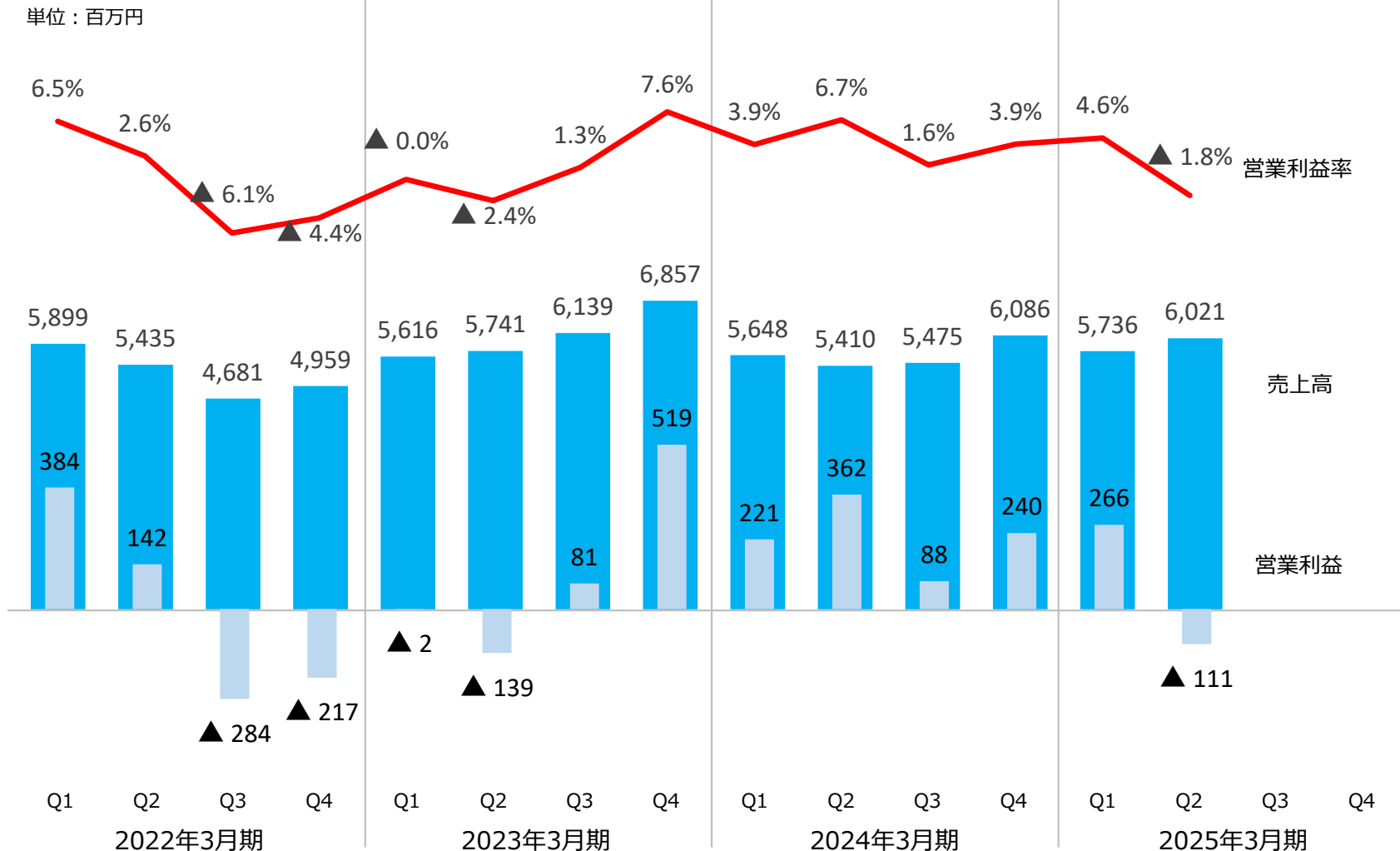


※2024年3月期より、欧州セグメントに含まれていたGeiger USAを北南米セグメントに変更しています。

セグメント別四半期業績推移 <欧州>



売上高	20,973百万円	売上高	24,353百万円	売上高	22,619百万円	売上高	11,758百万円
営業利益	25百万円	営業利益	460百万円	営業利益	911百万円	営業利益	156百万円
営業利益率	0.1%	営業利益率	1.9%	営業利益率	4.0%	営業利益率	1.3%



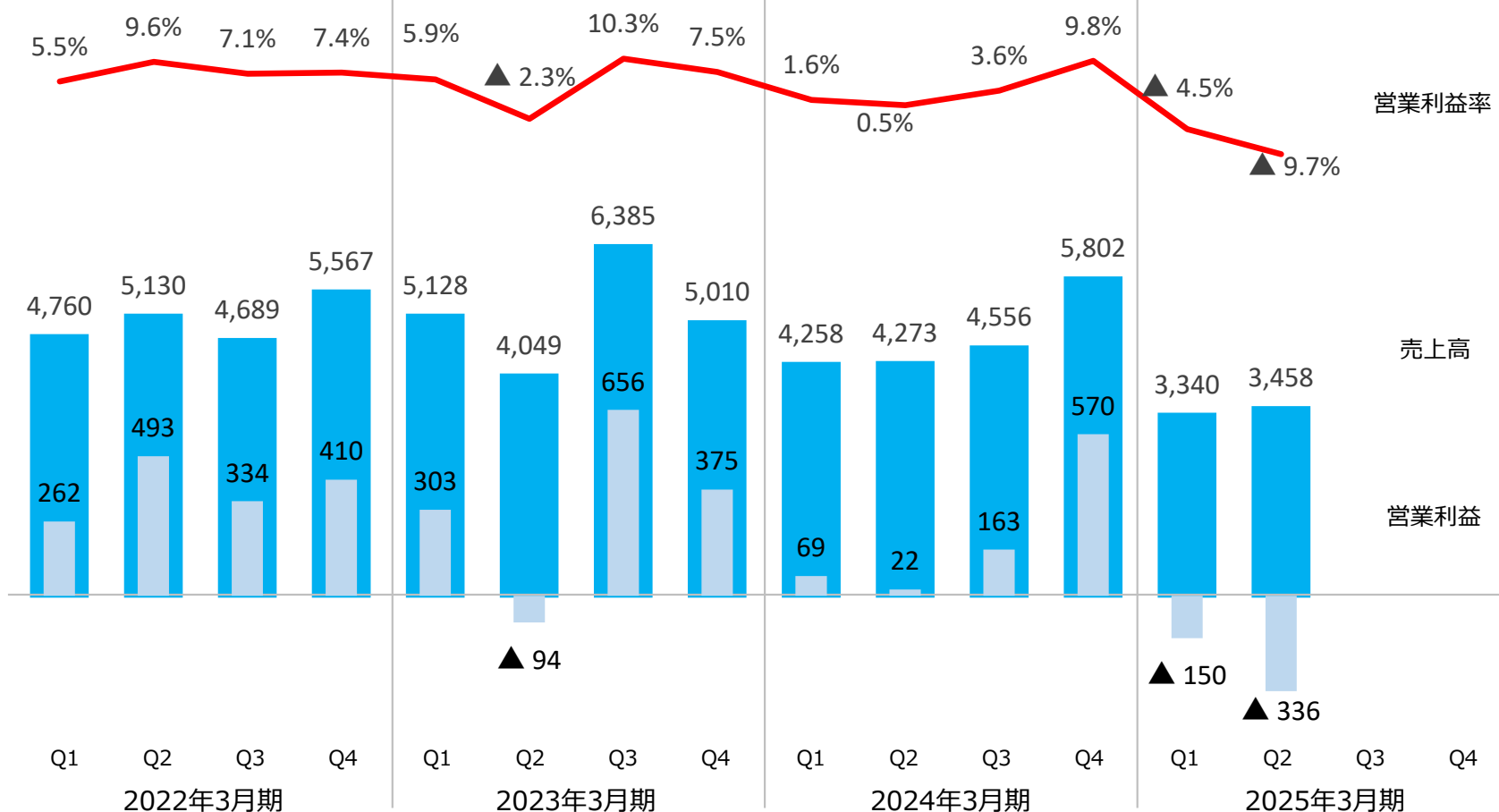
※2024年3月期より、欧州セグメントに含まれていたGeiger USAを北南米セグメントに変更しています。

セグメント別四半期業績推移 <中国>



売上高	20,146百万円	売上高	20,572百万円	売上高	18,888百万円	売上高	6,798百万円
営業利益	1,499百万円	営業利益	1,240百万円	営業利益	824百万円	営業利益	▲486百万円
営業利益率	7.4%	営業利益率	6.0%	営業利益率	4.4%	営業利益率	▲7.2%

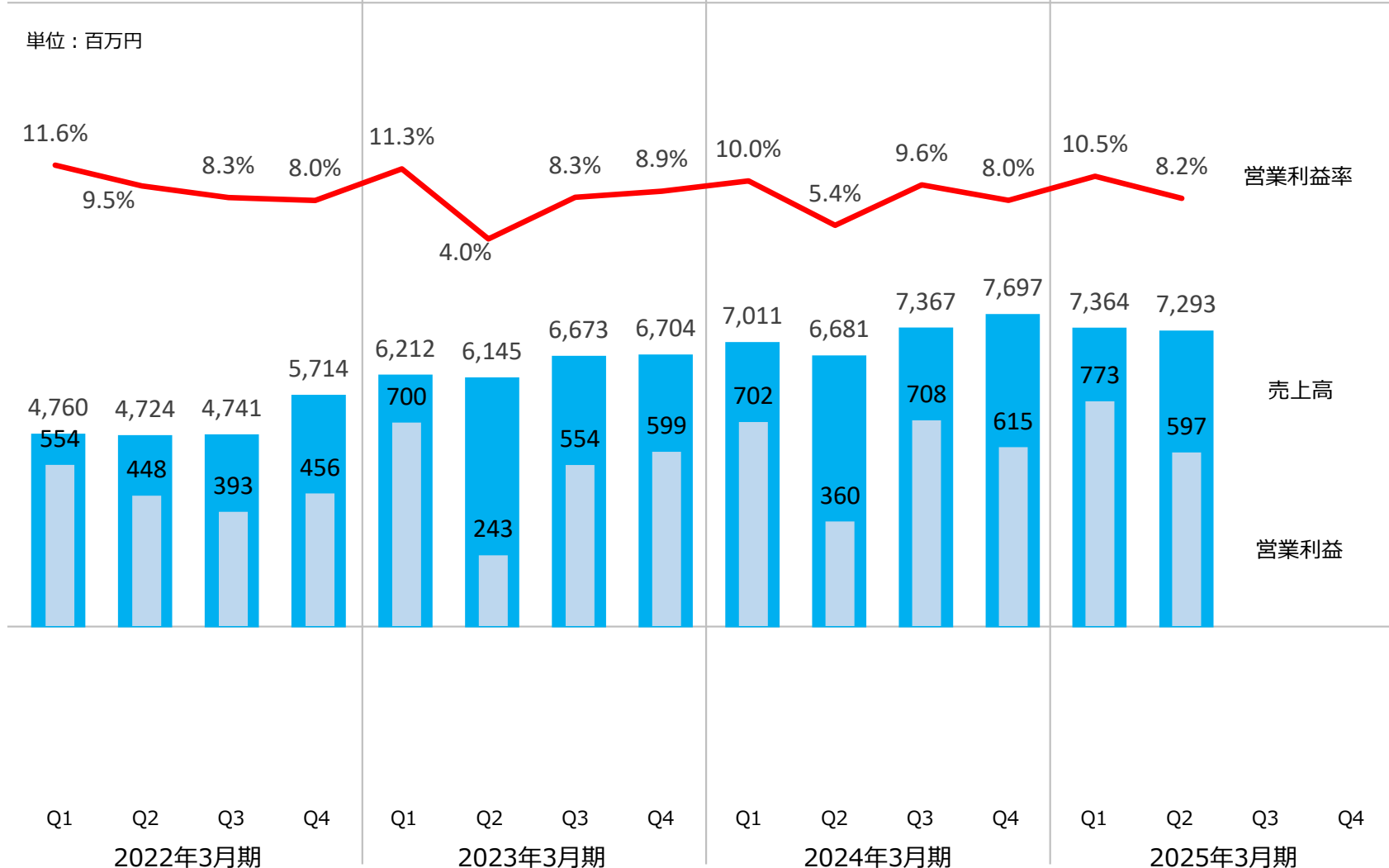
単位：百万円



セグメント別四半期業績推移 <アジア>

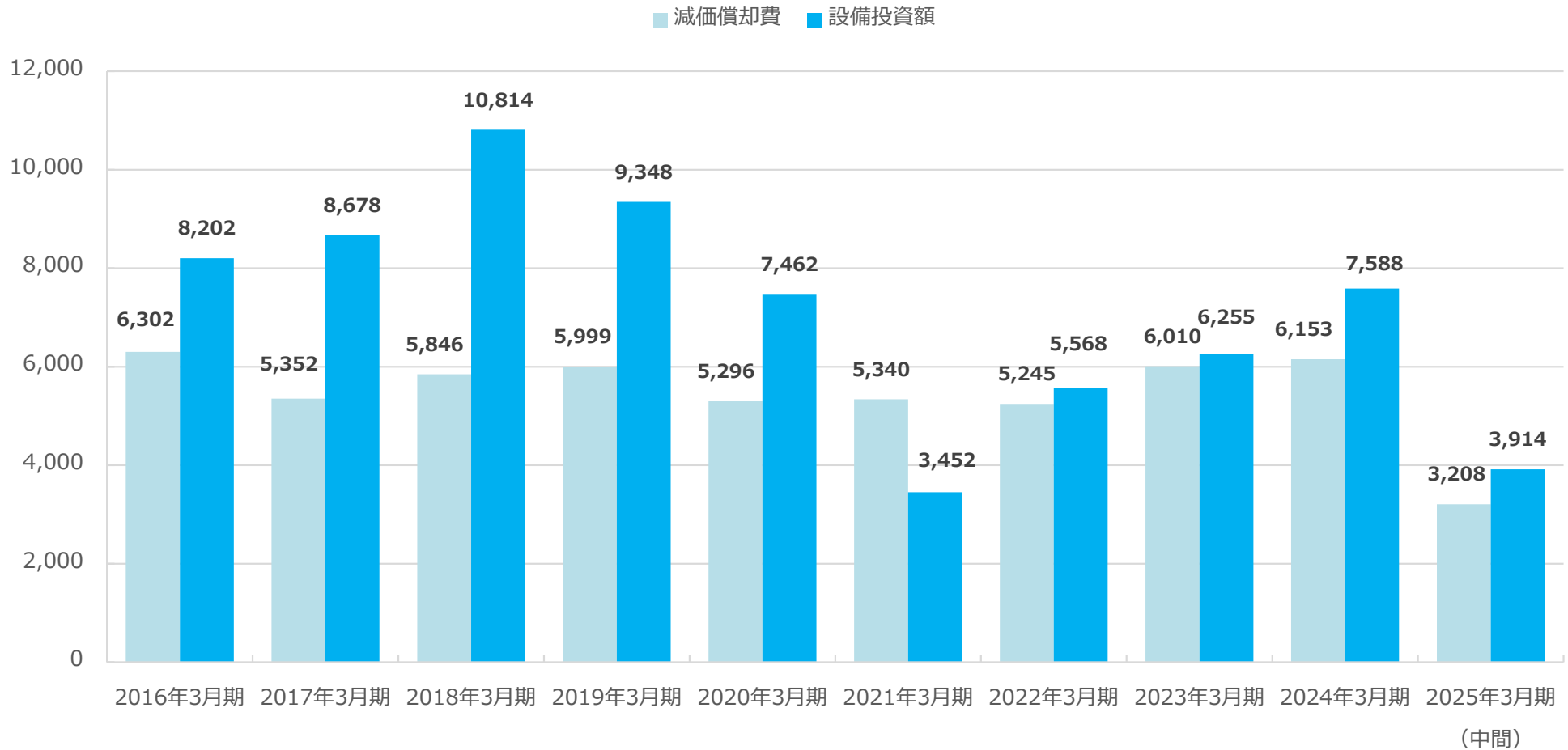


売上高	19,940百万円	売上高	25,735百万円	売上高	28,756百万円	売上高	14,656百万円
営業利益	1,851百万円	営業利益	2,096百万円	営業利益	2,384百万円	営業利益	1,371百万円
営業利益率	9.3%	営業利益率	8.1%	営業利益率	8.3%	営業利益率	9.4%

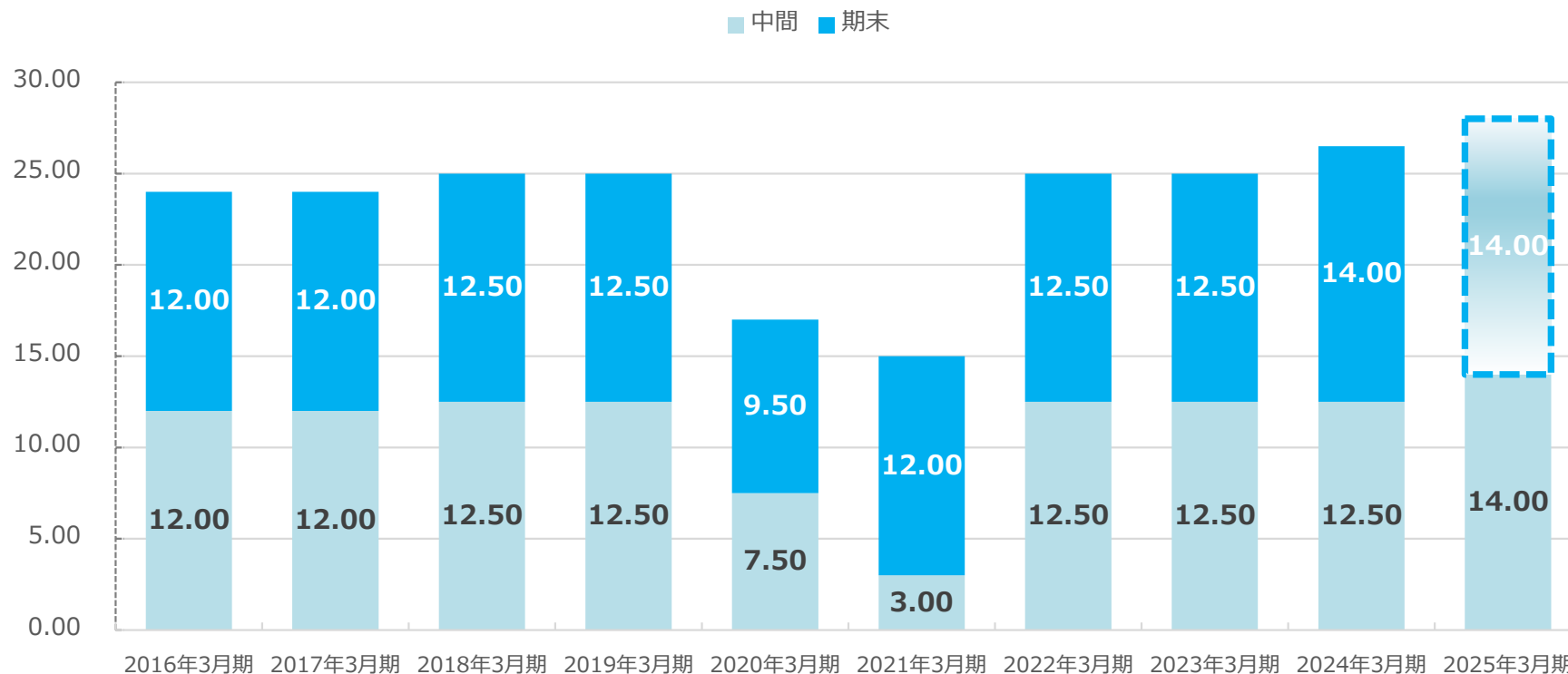


設備投資額および減価償却費の推移

設備投資額は、コロナ禍を期に一時抑制いたしました。近年は減価償却費相当へ復元し、減価償却費を超える水準にまで達しました。



配当金は、コロナ禍発生の前後を除いて、安定配当を継続しております。前期に下期の配当を12.50円/株から14.00円/株へと引き上げ、今期の配当予想は年間28.00円/株としております。



(ご参考)

配当性向 (%)	-	81.4	18.4	-	28.4	15.0	89.6	-	22.6	23.9
DOE (%)	2.4	2.6	2.4	2.5	2.0	1.7	2.5	2.4	2.3	-

注：配当性向の「-」表記は一株あたり純損失を計上した期。2025年3月期期末配当金14.00円および同配当性向23.9%はいずれも予想。同DOEは現時点では未定につき「-」。

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。